

## 1 . 診察

賛助医師 山崎 哲也

福田 潤

メディカルトレーナー 望月 麻紀

## 概 要

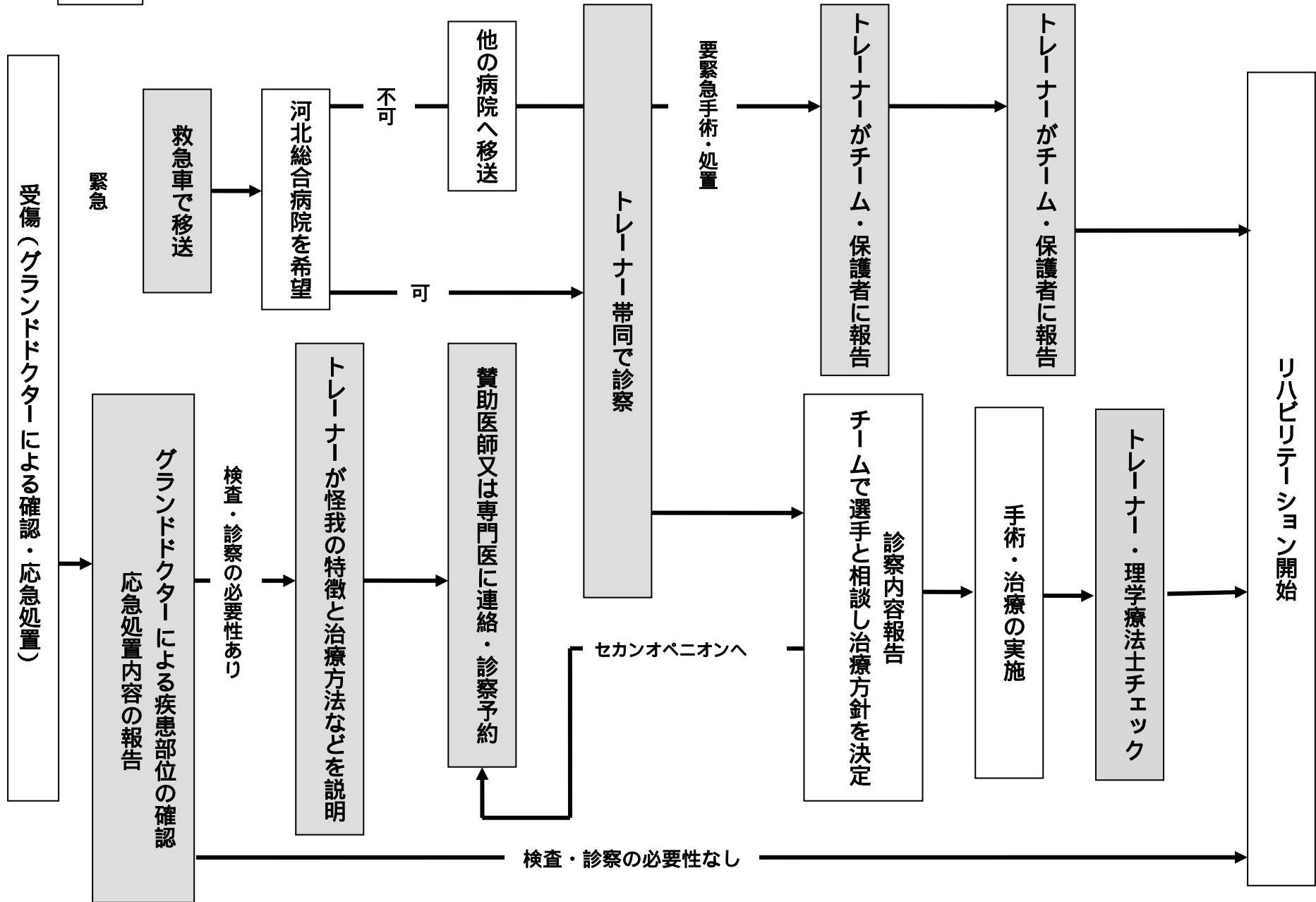
診察は、現メディカルサポート体制に賛同して頂いた医師が R.O.B 倶楽部賛助医師としてご協力いただいている。特に整形外科的疾患が多く見られるため、整形外科医においては全賛助医師が日本整形外科学会専門医の認定を受けている。受傷後から診察までの流れはフローチャート(図1)の流れに沿って行われている。

賛助医師及びグラウンドクターを受診の際には、「診察のお願い」(資料 )と受傷状況などを記載した「受傷報告書」(資料 )を持参し、診察時の参考にしていただいている。また、診断内容を「医師診断書」(資料 )に記載していただくことで、その後の治療方法や復帰時期をチーム全体で把握することが可能になった。手術が必要とされる際には、選手のご家族に対して「お知らせ」(資料 )と「医師診断書」のコピー、帯同トレーナーにより記載された「診療報告書」(資料 )を郵送し、手術までの流れとその必要性についてご理解を頂けるように努力している。

2004 年度から執行されたこの制度は、近年定着化しており、選手のご家族にご理解いただくと同時にご好評頂いている。また賛助医師及びグラウンドクターのご協力によって、他の専門医をご紹介いただきなど、さらに専門性の高い診察・治療が可能になりつつある。

受傷後から診察までのながれ

図 1



資料

ご診察のお願い

\_\_\_\_\_先生

早稲田大学ラグビー蹴球部員\_\_\_\_\_の受傷に伴いその結果、\_\_\_\_\_であることが予測されています。つきましては先生の診断、治療をお願い致します。この手紙に同封いたしました“受傷報告書”には、医療記録、受傷時の状況、現在に至るまでの治療方法、現在の問題点などが記入されております。一方の“医師診断書”は診断後に診断の詳細、治療方法、運動制限などをご記入していただければと思います。“医師診断書”はチームやOB会への報告と今後の治療やリハビリテーションの参考にさせていただきますのでお手数とは思いますがよろしくお願い致します。

今回の件においてなにか不明瞭な点がありましたら、下記の絡先へご連絡下さい。今後ともよろしくお願い致します。

記入者\_\_\_\_\_ 日付 20 年 月 日

連絡先：

早稲田大学ラグビー蹴球部  
上井草グラウンド  
東京都杉並区上井草 3-35-21  
代表：03-3395-1118

トレーナー連絡先：

望月麻紀：090-4226-1362  
[makim4@tkd.att.ne.jp](mailto:makim4@tkd.att.ne.jp)

早稲田大学ラグビー蹴球部  
R.O.B 倶楽部幹事会技術・競技部会  
スポーツ医・科学担当責任者 宝田雄大

---

---

氏名： \_\_\_\_\_ 生年月日： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日（満 \_\_\_\_\_歳）

学年： \_\_\_\_\_ ポジション： \_\_\_\_\_

住所： \_\_\_\_\_

受傷部位： \_\_\_\_\_

受傷日時： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_時 \_\_\_\_\_分ごろ（ 新規・再発 ）

受傷時の状況： \_\_\_\_\_

過去の受傷歴：

受傷時の患部状態： \_\_\_\_\_

受傷時の対応： \_\_\_\_\_

備考： \_\_\_\_\_

記入者： \_\_\_\_\_ 記入日： 200 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

---

---

早稲田大学ラグビー蹴球部  
R.O.B 倶楽部幹事会技術・競技部会  
スポーツ医・科学担当責任者 宝田雄大

担当医： \_\_\_\_\_先生 日付： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

選手名： \_\_\_\_\_ 疾患名： \_\_\_\_\_

診断結果の詳細： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

練習・試合の参加： 可 ・ 不可

復帰条件： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

手術の必要性： 有 ・ 無

運動制限： 有 ・ 無

詳細： \_\_\_\_\_

治療方法・リハビリテーション： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

注意点・禁止事項： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

復帰予想時期： 200 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日（受傷後 \_\_\_\_\_ヵ月・週間）

資料

お知らせ

拝啓、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、ご子息で在られます\_\_\_\_\_君の受傷に伴い、\_\_\_\_\_診察を受け手術が必要と診断されました。同封いたしました“医師診断書”には、医師による診断内容が記入されております。また、診断報告書には帯同いたしましたトレーナー（\_\_\_\_\_）による診察までの経過、診察内容や先生のコメント等を記入しております。

今回の件で、不明瞭な点などありましたら下記の連絡先にご連絡いただければ幸いです。

記入者\_\_\_\_\_ 日付 年 月 日

連絡先：

早稲田大学ラグビー蹴球部  
上井草グラウンド  
東京都杉並区上井草 3-35-21  
代表：03-3395-1118

トレーナー連絡先：

望月麻紀：090-4226-1362  
[makim4@tkd.att.ne.jp](mailto:makim4@tkd.att.ne.jp)

早稲田大学ラグビー蹴球部  
R.O.B 倶楽部幹事会技術・競技部会  
スポーツ医・科学担当責任者 宝田雄大

病院名： \_\_\_\_\_ 病院  
担当医： \_\_\_\_\_ 先生 診察日時： 2004 年 月 日 時 分  
選手名： \_\_\_\_\_ ポジション： \_\_\_\_\_ 学年： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_  
疾患名： \_\_\_\_\_

診断結果の詳細： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

練習・試合の参加： 可 ・ 不可

手術の必要性： 有 ・ 無

手術日： 年 月 日

今後の方針・手術方法： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

注意点・禁止事項： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

復帰予想時期： 200 年 月 日（受傷後 カ月・週間）

その他確認内容

Q1. \_\_\_\_\_

A1. \_\_\_\_\_

Q2. \_\_\_\_\_

A2. \_\_\_\_\_

帯同者： \_\_\_\_\_ 月 日



## 2007 年度早稲田大学ラグビー蹴球部に対する活動内容

横浜南共済病院 整形外科医 山崎哲也

### .はじめに

2004 年度より R.O.B 倶楽部主導でスポーツ医・科学体制が整えられ、私も賛助医師の一人として参加させていただいている。現在までの活動としては、恩師である故高澤晴夫先生（横浜市立港湾病院元院長）などの元で従事させていただいたラグビーのチームドクターという経験を生かし、早稲田大学ラグビー蹴球部に所属する選手を対象として、外傷後の診察や治療などの相談を受け、必要な場合は横浜南共済にて手術的治療を行なっている。今回、報告書という形で 2007 年度の活動内容を紹介する。

### .方法および結果

2007 年度における選手の診察および相談までの手順と主な診療内容を総括した。

診察までの流れは、早稲田大学ラグビー蹴球部メディカルトレーナーによって連絡を受け、指定した診察日に横浜南共済病院スポーツ整形外科外来を受診させ診察および診断を行った。また、診察以外の相談は、電子メールあるいは電話を利用し、メディカルトレーナーに対して行なった。

主な相談および診察内容での傷病名は、頸椎ヘルニア、反復性（習慣性）肩関節脱臼、足関節脱臼骨折、上腕骨螺旋状骨折などで、診断結果および治療法の選択肢に関し、本人もしくはトレーナーに説明した。当院にて手術的治療を行なった最も多い疾患は、反復性肩関節脱臼で、主にブリストー変法を施行した。本手術法の特徴は、早期復帰が可能なことと再脱臼が少ないことで、術後 3 ヶ月目に実施する 3DC T 検査によって骨癒合が確認され次第、コンタクトプレーを許可した。2007 年度に本手術を施行した選手は 3 名で、現時点において再脱臼の報告は受けていない。

### .まとめ

受傷後の適切かつ迅速な評価と各種治療方法における長所・短所を選手本人に説明し、十分なインフォームドコンセントの元に治療方針を立てることが重要と考える。

山崎哲也  
整形外科医

経歴

昭和 62 年 3 月滋賀医科大学医学部医学科卒業  
昭和 62 年 6 月横浜市立港湾病院整形外科研修医  
平成元年 6 月平塚共済病院整形外科医員  
平成 2 年 6 月横浜市大病院整形外科特別職  
平成 3 年 6 月横浜市大病院救命救急センター整形外科助手  
平成 4 年 6 月横浜市立港湾病院整形外科医務吏員  
平成 6 年 6 月横須賀共済病院整形外科医長  
平成 8 年 6 月横浜市立港湾病院整形外科副医長  
平成 12 年 6 月横浜南共済病院整形外科医長  
平成 14 年 7 月横浜南共済病院スポーツ整形外科部長現職

免許・資格

昭和 62 年 6 月 10 日医師免許証  
平成 6 年 10 月財団法人日本体育協会公認スポーツドクター  
平成 8 年 2 月 29 日社団法人日本整形外科学会専門医  
平成 19 年 4 月 1 日社団法人日本整形外科学会スポーツ医

所属学会

日本整形外科学会 / 日本整形外科スポーツ医学会 / 日本肩関節学会 / 日本関節鏡学会 /  
日本膝関節学会 / 日本肘関節学会 / 日本臨床スポーツ医学会

学会・研究会役員

日本整形外科スポーツ医学会評議員  
日本関節鏡学会評議員  
よこはまスポーツ整形外科フォーラム世話人  
神奈川手・肘の外科研究会運営委員  
ヨコハマベイ・スポーツセミナー世話人

院外活動

横浜ベ이스ターズチームドクター  
関東学院大学ラグビー部チームドクター  
関東学院大学野球部チームドクター  
全日本ハンドボールチーム協力ドクター

## 2007 年度早稲田大学ラグビー蹴球部に対する活動内容

藤沢湘南台病院 整形外科医 福田潤

### はじめに

2004 年度より R.O.B 倶楽部主動で、スポーツ医・科学体制が整えられ賛助医師として、早稲田大学ラグビー蹴球部に所属する選手に対して、受傷後の診察や手術を行ってきた。また、長年ラグビーのチームドクターという経験を生かし、治療や手術方法などの相談などを定期的に受けた。今回、その活動内容を報告書という形でまとめた。

### 方法

2006 年から 2007 年度までの診察までの流れ、相談内容と実施した手術内容をまとめた。診察はメディカルトレーナーから連絡され、指定した診察時間に所属先である藤沢湘南台病院の整形外科外来で行った。また、診察以外の相談については、メディカルトレーナーを通し、電子メールまたは電話で連絡を受け行った。主な相談内容としては「頸椎ヘルニアを受傷した選手に対する協議復帰の不可や復帰方法」、「膝前十字靭帯損傷の保存的治療での復帰方法」などであった。

### 結果

診察内容は主に膝関節の怪我で、2006 年から 2007 年まで手術を受けたのは膝関節前十字靭帯損傷 1 名と膝蓋骨脱臼 1 名であった。膝関節前十字靭帯損傷の手術は STG 法で行い、術後 9 月を復帰目標とし、早稲田大学ラグビー蹴球部メディカルトレーナーと定期的に連絡を取りリハビリテーション内容や注意事項を教示した。膝蓋骨脱臼の手術方法はトリガー法を用い復帰は術後 4 カ月とした。膝関節前十字靭帯損傷 1 名と膝蓋骨脱臼 1 名の選手は予定通り、それぞれ術後 9 ヶ月と 4 ヶ月で競技復帰した。

### まとめ

ラグビーは高強度のコンタクトスポーツであることから、頸椎や脳震盪などを含めた怪我が多くみられる。一方で、ラグビーという競技を把握した上で、競技復帰の不可や手術方法などの決定はラグビー経験またはチームドクター経験が豊富である必要がある。また、手術に関しては、各専門医による治療が必要であることがいえる。

福田 潤  
整形外科医



【経歴】

1989年信州大医学部卒業後、横浜市大病院、神奈川県総合リハビリテーションセンター、日本体育協会スポーツ診療所などを経て98年より藤沢湘南台病院に勤務。  
現在は藤沢湘南台病院健康スポーツ部部長、LIFE健康&スポーツ研究所所長。

日本オリンピック委員会強化スタッフ

日本整形外科学会専門医

日本体育協会公認スポーツドクター。

横浜フリューゲルス、ラグビー日本代表チームなどの元チームドクター。

現在リコーラグビー部と帝京大ラグビー部チームドクター。

特に肩、肘、膝、足関節の関節鏡手術を専門分野としている。

## 診察について

早稲田大学ラグビー蹴球部メディカルトレーナー 望月 麻紀

### 目的

2007年度、早稲田大学ラグビー蹴球部に在籍していた選手を対象に、賛助医師及び専門医を受診した主な疾患と内容、セカンドオピニオンを必要とした内容を調査することにより、今後の賛助医師・及び専門医を受ける基準とする事を目的とした。

### 方法

2007年度に在籍していた早稲田大学ラグビー蹴球部選手を対象に行った。受傷後、グラウンドクターまたはメディカルトレーナーにより怪我の評価及び応急処置を受け医療機関及び専門医による検査・診察が必要と判断された選手の部位別・疾患別による受診先を記録した。また、セカンドオピニオン制度が適用された例の判断基準とその後の治療方針内容を記録し調査した。専門性を必要としない疾患で早期の治療（手術・ギブス固定などを含む）を必要とされる場合は、グラウンドクターが所属する病院を含めもっとも早い治療がお願いできる医療機関に依頼した。

### 結果

2007年度に賛助医師（賛助病院を含む）及び専門医を受診した件数は35件であった。部位別では膝関節が16件と最も多く、その次に肩関節（鎖骨を含む）で12件であった（表1）。傷害別・部位別の医療機関は表2に表している。専門性を必要とせず、早期の治療が必要と判断された傷害は22件見られ、主な内容はレントゲン・MRI検査による重症度の確認（15件）、専門性を必要としない手術（4件）、紹介状の発行（1件）、ギブス固定（1件）、脳震盪のため入院（1件）であった。昨年度、セカンドオピニオンが必要とされた件数は2件みられた。セカンドオピニオンを適用した内容は、1件が肩関節の手術方法の違いについて、もう1件が前十字靭帯断裂の保存治療でのメリット・デメリットについて、各専門医にご相談しご所見をうけた。

### まとめ

前十字靭帯断裂や肩関節脱臼など、手術方法が複数存在し長期リハビリテーションを必要とされる疾患に対して専門医を受診する必要性は非常に高い。特に、4年間という限られた期間の中で、早期復帰が可能とし再受傷が低い手術方法は選手のみならずチームにとっても魅力的であることが、肩関節脱臼の手術で鳥口突起を移植するブリストー法を選択する選手が多いことから伺える。

今後は、早期復帰と再受傷予防を目標にリハビリテーションシステムの強化のみならず、より明確なインフォームドコンセントと高い専門性をもった医師を受診することにより、選手とチームに対し手術方法や治療方針を立てることが必要と考えられる。

表1. 部位別の専門医受診件数

頸部・顔部	肩関節	手関節	股関節	膝関節	下腿・足関節	合計
4	12	1	1	16	1	35

表2. 部位・疾患別の受診医療機関

部位	疾患	受診医療機関
頸部・顔部	頸椎捻挫	北里研究所病院 スポーツクリニック 阿部均先生
	腕神経叢損傷	
	上顎骨骨折	東京医科大学病院 形成外科
	眼窩底骨折	
肩関節	腱板損傷	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 整形外科 鈴木一秀先生
	肩関節脱臼(バンカート法)	
	肩関節脱臼(プリスター法) *セカンドオペニオン含む	
手関節	手首舟状骨骨折	慶応義塾大学病院 整形外科 池上博泰先生
股関節	股関節唇損傷	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 整形外科 扇谷浩文先生
膝関節	前十字靭帯断裂(BTB法)	関東労災病院 整形外科 内山英司先生 岩噌弘志先生
	前十字靭帯断裂(STG法)	藤沢湘南台病院 健康スポーツ部 福田潤先生
	膝蓋骨脱臼(手術)	
	半月板損傷	昭和大学藤が丘病院 整形外科 高木 博先生
	膝窩筋腱断裂	厚生年金病院 整形外科 柏口新二先生
前十字靭帯断裂(セカンドオペニオン)		
下腿・足関節	総腓骨神経麻痺	東京医科大学病院 神経内科